

緊急時対応マニュアル



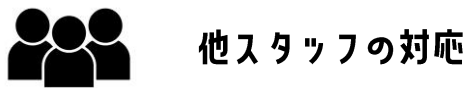
防犯編



01.防犯対策としてできること

- (1) 職員は常に来所者の出入りのチェックをする
・状況によっては門の閉めあるいはドアを閉め、出入りのチェックができるようにしておく。
- (2) 普段見かけない者がいた場合には、あいさつ等必ず声をかけ、身元の確認をしておく
※「スタッフが側にいるから大丈夫」「家族あるいは親戚の人がと考える」と思わず、1人1人確認すること
- (3) 施設内で配慮すること
・刃物（ハサミ・カッターなど）は凶器になる恐れがあるので、持ち込みを禁止し、施設内ではスタッフルームに保管する
・防護棒やさすまたの代用品としてワンタッチタイプの傘を入口およびスタッフルームに所に置いておく
・個人情報や金銭については鍵付きのキャビネットに保管をする
- (4) ガラス飛散防止フィルム・防犯フィルム・防犯ガラスを貼る
・何も対策をしていない施設は15秒程で侵入が可能で、防犯フィルム等の対策をしても約3～5分で侵入が可能とのこと。
何もしないよりはこの数分間に逃げる時間や、助けを呼ぶ時間がかせげる防犯対策が必要と考える。
- (5) 地域の関係機関との連携
○不審者情報については関係機関にも連絡し、お互いに犯罪防止に努める

02.不審者の侵入があった場合



- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 相手を興奮させず冷静に対応し、退去を説得する。(2) 利用者の安全確保のため、必要に応じ、職員は防護棒やさすまたなどで最善の努力をする。(3) 退去しない時は、できれば別室へ案内し、隔離する。 | <ol style="list-style-type: none">(1) 利用者の安全確保のため、速やかに避難誘導する。(2) 110番通報する。(3) 現場に急行し、不審者に複数で対応する。 |
|--|---|

03.その他、想定されること

【不審者が逃亡した場合】

- ・不審者の服装・予想年齢・特徴・車（あるいは自転車）などのナンバー、車種がわかればメモしておく

【不審者が利用者を連れて逃亡した場合】

- ・利用者の安全を第一に考え、相手を刺激するようなことはしない。
- ・事故に遭わないように逃走先を確認する。
- ・警察と連絡しながら、追跡する。

【近隣に出没したと情報が入り、確認されたとき】

- ・情報を受けたら、施設責任者は直ちに他の職員に伝え、出入り口を閉め（あるいは職員が立つようにし、出入りのチェックをする）。
- ・確かな情報を受け、対応の確認をする。
- ・室外にいる利用者は直ちに室内へ誘導し、外に出さず、安全確保に努める。

04.緊急時の役割

施設責任者	スタッフ
不審者対応 スタッフへの指示 警察との連携	通報・連絡 利用者誘導 不審者対応 サポート